



# 「巡検」の方法と展開

## —その2 「巡検」の実践—

元全国中学校社会科教育研究会会長 赤坂 寅夫



**【質問】** 教員対象と生徒対象の「巡検」はそれぞれどのように行うべきか、教えてください。

### その一 現地での観察による「？」と「！」

前号のまとめで出題した問い「東京都千代田区じんぼうちょうの神保町の古書店街と台東区たわらまち浅草・田原町の仏具店街には共通の特色＝どちらも道路を挟んだ南側に店舗が集中している。それは、なぜか？」について解説します。

実際に現地に行かれた方でなくても写真を見て答えを導いた方が多いと思います。その答えは「日焼け（直射日光）による商品の劣化防止」のためです。この解説を誌面で読んで理解するより、実際に神保町・田原町に出かけ、良く晴れた日に古書店・仏具店の並びを観察することでその理由や背景が腑に落ちると思います。これによって前号の「巡検の意義」で示した「事象・景観を自分の目で観察することによって、地域・社会に対する好奇心・探究心が涵養され、地域への愛着心をもつ」の意味がおわかりいただけるでしょう。そして次に湧き出る問い「神保町に古書店が、田原町に仏具店が、なぜ集まったのか？」については、皆さんそれぞれが調べてみてください。

#### ポイント①



現地での観察に勝るものはなし

### その二 巡検の観察のポイント

私は巡検を行う際に必ず参加者に問う視点が

あります。現地を訪れ、目の前にあるものをリアルにとらえることが巡検の目的であり、具体的データを実感・体感する貴重な場となると考えます。以下がその視点です。

- 方位・・・東西南北どちらを向いているか。
- 距離・・・100m・1kmほどまでか。
- 広さ・・・学校あるいは工場の敷地は何㎡？
- 高さ・・・神社のある台地の高さは何m？
- 気温・・・今現在の外の気温は何度？

突然、上記の問いかけをされてもなかなか答えにくいのが現実です。そこでヒントを提供することが大切です。例えば、東西南北の方位を考える際には、太陽の位置・方向がヒントになります。簡単なことのようにですが、道に迷った場合の対処の仕方としても重要です。距離・長さを考える際には、電車の長さを提供します。例えば多摩川に架かる橋の長さを問いかけた場合、橋を通る電車の車両がヒントになります。一般の電車なら1両がほぼ20m、新幹線なら1両が25mで、その何両分かで長さを測ることができます。台地の高さとはいうと、およそ1階分を3mとして台地の下にあるビルの何階分かで測ることができます。

以上のような視点も含めて、私が目黒区中学校社会科研究会の研修で行った「東京都港区あた愛宕神社・増上寺周辺の巡検」（写真①～④、図1）について、地理・歴史・公民の観点も踏まえた観察ポイントを紹介します。

- ①港区立御成門おなりもん中学校の正門前は海拔何m？
- ②中学校前の交差点から坂の向こうの交差点までの高度差は何m（写真①）？
- ③青松寺せいしょうじ周辺はなぜ寺院が多いのか？
- ④愛宕神社参道の石段（写真②）は何段？



↑写真① 御成門中学校前の交差点前方(西)に向かって標高が高くなっていく様子が見える。



写真② 愛宕神社から見下ろした様子→愛宕山の標高は25.7m、石段の段数は86段。ビルにして約9階分の高さ。



↑写真③ 港区立芝公園内の災害用マンホールトイレ  
災害時にトイレになるマンホールトイレなど災害に備えた施設が設置されている。



↑写真④ 増上寺 大門  
増上寺の総門・表門があったことが地名(芝大門)・駅名の由来。

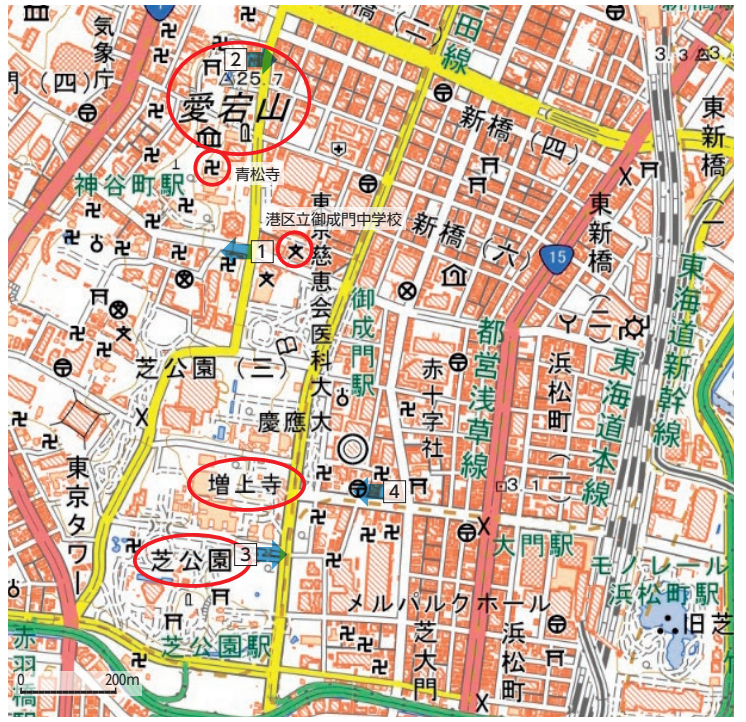


図1 港区愛宕神社・増上寺周辺の地図(国土地理院「地理院地図」より)

- ・参道上に立つと、向かいのビルの何階と同じ？
  - ・参道の高低差は何m？
  - ・参道石段の傾斜角度は何度？
- ⑤愛宕神社の由来は？
- ⑥公園内には災害に備え、どのような施設があるか？
- ・災害用トイレ(写真③)を確認しよう。
- ⑦芝公園の一带は、江戸時代は何があったか？
- ⑧大門(写真④)の横にある掲示物「広重の東都名所『芝神明』『増上寺』」と現在を比較しよう。


この巡検は愛宕神社や増上寺を対象に歴史的視点からの巡検を中心としています。特に徳川家の菩提寺となり約25万坪(約83ha)の敷地であった江戸時代の増上寺が、現在はどのような範囲でどのように変遷してきたのか、現在の地図と江戸時代の絵図とを照合・比較<sup>\*</sup>することで、増上寺の周辺に寺院が集中していることや「大門」、「御成門」の地名・駅名の由来が理解できます。また江戸時代には江戸湾を見渡せる景勝地であり、勝海舟と西郷隆盛が江戸の町を見渡し江戸無血開城を決断したとされる愛宕山は、武蔵野台地の東端に位置し、港区には武蔵野台地に複雑に入り組んだ谷地と台地をつなぐ坂が多く見られます。愛宕神社はこの台地と低地の高低差が明確に観察できる好地点です。地図上に示されている25.7mのリアルな高さを石段の数

<sup>\*</sup>アプリ「大江戸今昔めぐり」や東京歴史MAPMAP(<https://mapmap.tokyo/tokyohistorymap/>)といったサイトで江戸時代の絵図と現代の地図を重ね合わせたものが閲覧できる。

や周囲のビルの階数と照合することで、実際に現地を見る巡検の地理的意義が理解されます。また実際にその場に立つことで、歴史的な事象における地理的背景を理解することにもつながります。さらに芝公園内には、大都市における大地震発生時に備えた防災施設が設けられています。巡検ではその地域の自治体による防災や産業・経済振興を目的とした施設・設備を見学することも大切です。巡検で現在の地方自治の取り組みに触れることは、公民的分野での地方自治の学習において、地域住民として地域に主体的に関わる意識を醸成するという観点からも重要なことです。

このように、多様な視点から「リアル」を理解する巡検のコースを工夫することが大切です。

**ポイント②**



多様な視点から観察・調査できる場所やコースを工夫する

### その三 発見する喜び・楽しさを体験させる生徒対象の巡検

先生方を対象とした巡検は、既習の知識の再確認やより深い見方・考え方につなげる観察・見学が比較的多いのですが、生徒を対象とする巡検は、初めての発見や日頃見慣れた事象に興味をもたせることが重要であると考えます。その意味で、東京都の事例ばかりで申し訳ありま



せんが、大都市ならではの事例を紹介します。  
江東区立大島中学校おおしまでの茂田井一人先生（現中野区立北中野中学校勤務）の事例です。

江東区立大島中学校は、荒川と隅田川の河口付近のいわゆる0m地帯に位置しており、学校最寄りの都営新宿線大島駅を中心に10階建て以上のマンションが建ち並び、広い通り沿いには商店や飲食店が並び、学校周辺には2～3階建ての一軒家と3～5階建ての集合住宅が多く見られます（図2）。駅周辺の高層マンション、駅から延びる商店街、学校周辺の住宅街という様相は、都区内で多く見られる地理的事象です。商店や住宅が密集し、交通量も多く生徒主体のフィールドワークの実施が困難な学校における「身近な地域の調査」の学習を次のように計画し、実際の授業時間1時間分で巡検を実施しました。

#### 「身近な地域の調査」9時間扱い

- 1～7時間前半 「身近な地域の調査」の学習  
…地形図の学習や江東区についての地域学習
- 7時間後半 巡検の事前指導  
…巡検の観察ポイントやワークシートの記入方法についての説明
- 8時間目 巡検
- 9時間目 巡検のまとめ・考察

学校周辺での巡検の観察ポイントは以下の通りです。観察で得た疑問・考えをワークシートにそのつど記入させました。

- 建物の高さに注目しよう。
  - ・学校周辺の住宅は何階建てが多いか？
  - ・大島駅周辺は何階建てが多いか？
  - ・商店街は何階建てが多いか？
- 建物の中身に注目しよう。
  - ・学校周辺の住宅の1階は何が多い？
  - ・10階以上のビルの1階は何が多い？
  - ・2～3階は何が多い？4階以上は何が多い？
- 新大橋通りを挟んだビルの高さに注目しよう。
  - ・通りの南側は10階建て以上、北側は3階建てが多い（写真⑤）。それはなぜか？

巡検の時間は50分、しかも人通りの多い地域ではいけないに説明できないので、事前指導とワークシートに短時間で記入できる工夫が必要となります。この事例では建物の高さの中身



写真⑤ 新大橋通り周辺の様子  
写真の左が南、右が北。



図2 江東区立大島中学校周辺の地図（国土地理院「地理院地図」より）  
の違いに焦点を絞ったことがポイントです。

中学校周辺の住宅の多くは、1階が駐車スペースになっています。これは地価が高く、限られたスペースの有効利用が主な要因であるとともに、0m地帯での防災対策としての要因も考えられます。また高層ビルの1階はコンビニエンスストアやファミリーレストランなどの店舗や飲食店、2・3階は学習塾や医院、事務所、4階以上は住居スペースが多いことが特色です。生徒は日常生活から駐車場や店舗、飲食店が多いことは目にしていますが、その背景や理由については考える機会が多くはありません。

茂田井先生は本巡検のねらいを「地図では表しきれない事象があることを現地の景観観察によって気付かせ、発見する喜びや楽しさを体験させる」としています。現地観察で見た事象の背景や理由を、事後学習において人口分布や地価・交通量など地理的視点で検証することで、巡検の意義が深まります。また、通りの南側と北側の建物の階数の違いは日照権が関わっていることに気付くことで公民的分野での学習にもつながります。これらの成果が本実践後の生徒の学びにも表れています。

#### ポイント⑤



事象の背景を広く、深く追究させるために観察のポイントを絞ること

写真①～⑤ 筆者撮影